

国立大学法人信州大学 地域のステークホルダーと連携して一貫型支援を行う信州型医療機器開発拠点

(<http://www.shinshu-u.ac.jp/project/amed-smed/>)

- 拠点の特徴：①メディカル関連機器分野に関心を持つ企業に対し、自社の得意技術を活かした部品・部材提供から最終製品開発までを支援
②附属病院や在宅医療の現場見学、医療機器ニーズの発掘、医工連携、製販マッチング、薬機法対応、海外市場展開までを総合支援
③上記①②の取組におけるOJTに加え、信州大学の医工連携大学院やオンデマンド型医療機器人材育成プログラム等も活用した人材育成

拠点における取組で一番紹介したい内容

10余名の医工連携コーディネータが案件ごとに伴走する下記A~Gの一貫支援体制

- A 附属病院全診療科で医療現場見学可能
- B 医療現場からの医療機器ニーズ発掘
- C 企業の技術シーズとマッチング
- D 医工連携による共同研究開発
- E 製販企業とのマッチング
- F 薬機法等への対応
- G 海外市場展開

関東・中部経済産業局と連携した、医師と企業のマッチングイベント
(拠点間連携にも寄与)



事業実績

【臨床現場見学】 R4年度、R1~4年度累計	
・人数	135人(4年間累計 506人)
・企業数	45社(4年間累計 178社)
【研修】	
・人数	451人(4年間累計 1926人)
・企業数	207社(4年間累計 958社)
【助言・指導・相談】	
・回数	487回(4年間累計 1430回)
・企業数	373社(4年間累計 1316社)
【医師とのディスカッション】	
・人数	561人(4年間累計 1333人)
・企業数	139社(4年間累計 395社)
【ニーズ】	
・収集件数	92件(4年間累計 389件)
・共有実績	92件(4年間累計 389件)
【シンポジウム・セミナー】	
・開催回数	2件(4年間累計 7件)
・人数	132人(4年間累計 618人)
・企業数	45社(4年間累計 262社)

拠点の支援メニュー等の紹介

世界最大の医療機器展示会ドイツMEDICA/COMPAMEDに10年以上にわたり信州大学ブースを設置。連携企業と共同出展し、欧州、北南米、中東、アフリカ諸国等のバイヤーに対し、会期中に5~10億円の商談を成立させ、海外市場展開人材をOJT育成。



拠点支援の成果等実例を交えた紹介



定期的に医療機器等成果事例集を発行
(<http://www.shinshu-u.ac.jp/project/amed-smed/docs/jireisyu2022.pdf>)
2021年には、第3回
日本オープンイノベーション大賞
厚生労働大臣賞を受賞
「救急搬送時の遠隔作業支援」